

# カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Maragtas Amante  
出身地：フィリピン・バンタン  
所属：フィリピン大学労働・労使関係学部教授  
日本滞在：2006年12月～2007年5月

## すばらしい日本！

マラグタス・アマンテ

日本について魅了されたことを書きたい。「すばらしい日本」のファンとして、肯定的な面を話したい。私は留学生として慶應大学で学び、一九九四年に博士号を取得した。指導していただいた教授には大変感謝している。バブル経済が崩壊した平成不況の時期でもあった。それからほぼ毎年、学術会議で短期来日しているが、経済の変動をもととせず、日本の社会基盤は「すばらしい日本」の底力を見せつけてくれる。

来日する外国人は、成田空港から東京までのパノラマを通り過ぎていく。都市化の波が押し寄せているが、わずかに残る森林や田園のなかにある神社仏閣では、厳かなお祭りが見られる。また、「頑張る！」という闘争精神が人々に感じられ、「サラリーマン」戦士となり平日のラッシュアワーの満員電車に乗って仕事に行く光景が見られる。勤勉に働くことで、より良い暮らしを創造し繁栄を分かち合うためにも、フィリピンやその他のアジア諸国も日本を見習うべきであろう。

### ・日本の驚くべき企業文化

日本には驚くべき企業文化が存在し、その土台は以下の点で依然屈強である。

① 中年の労働者でも長時間勤勉に仕事に取り組む姿勢や、企業への忠誠心

② チームワークや助けあうグループ精神  
③ TQC活動への参加や「改善」への取り組みの結果もたらされる高い生産性

④ 「春闘」での定期昇給

⑤ 企業の雇用主・労働者間の情報の共有性、透明性、協調性

一〇年前の予測に反し、春闘は消滅していない。昇給、ボーナス、その他の諸手当を享受することで、勤勉によりもたらされる利益は約束されている。

しかし、労働力は多様化しつつある。あの調査によると、二〇〇二年以降景気は回復しているが、職探しは難しく失業率は五・四％である。若年失業率はさらに高く八・七％である一方、ますます多くの女性は仕事を見つけている。今や「フリーター」や契約社員も存在する。そのうえ、一九九〇年には一〇〇万人であった外国人労働者は、二〇〇四年には二〇〇万人近くに達した。フィリピンからの労働者は、五万人から二〇万人と四倍増となった。フィリピン大使館によると、日本でのフィリピン人登録者数は約二二万人とのことだ。

人口の高齢化で生じる労働者不足は、労働市場や経済全体の生産性にも影響する。一・二％の出生率では、日本の人口は二〇五五年までに現在の約一億二七八〇万人か

ら九〇〇〇万人に落ち込む、と日本の厚生労働省は試算する。そのため大阪府は、第三子以降の子供をもつ家族に対し四〇万円支給することを決定したが、以前の支給金額よりも五万円増額された。これは驚くべきことだ。

・東京は住みやすいが、食料品の価格を下げる余地はある

東京は住みやすい。現在多くの外国人を見かける。この首都での暮らしが面倒だと外国人が思うのは正しくない。プラスチックやアルミ缶の「燃えないゴミ」と「燃えるゴミ」を分別することは、外国人にも難しくはない。だが外国人でも、初歩的な日本語や文化を理解する努力は少なくとも必要だ。日本人はいつも礼儀正しく、尋ねれば答えてくれる。相手の日本人に恐怖感を与えなければ、困ったときでも返答を拒絶されたり、逃げられることはない。

但し、唯一困ったことは食料品の価格が高いことだ。国内外から豊富な食料が日本に入ってくるのだから、その価格をもう少し安くできないものか。日本の農家は保護されているが、食料の流通には改善の余地がある。「言うは易し行は難し」だが、努力はすべきだと思う。

(前海外客員研究員／訳＝梶山貴史)